

●5月は青少年奉仕月間です。

室蘭北ロータリークラブ

会
報

むらんど汁 室蘭岳



Rotary



2022~2023年度 国際ロータリーテーマ

IMAGINE ROTARY

「イマジン ロータリー」

2022~2023年度 RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2023年5月9日(火) 第2419回 例会

第2510地区 日本 (DISTRICT 2510 JAPAN) ●会長:西野 義人 ●幹事:内池 秀光 ●編集:クラブ会報委員会 (担当/西城 明)

本日のプログラム

卓話「市立室蘭水族館の紹介と取り組み」

市立室蘭水族館
高山 佳代 様
プログラム委員会



洋食ランチ (春キャベツバターソース、オニオンスープ、シーフードカレー、サフランライス、アイスクリーム)

※例会終了後、定例理事会を開催致します。

次回の予定プログラム

卓話「インボイス制度、電子帳簿保存法への具体的対応」

富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)
北海道支社 営業統括二部
ソリューション営業部 吉川 雄一 様
プログラム委員会



和食ランチ (親子丼、小鉢、みそ汁、甘味)

※18:30よりクラブ協議会を開催致します。

出席報告

会員数	51名	出席者数	23名
出席免除者数	0名	欠席者数	28名
出席義務者数	51名	出席率	45.0%

前回までの例会の報告

第2418回 (4月18日) 例会記録



今年度の目標であるフードロスの解消

現在なお出欠のご連絡がない方がおられます。
欠席する際は必ず事前に連絡を入れてください。

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 個人として、また事業において、
高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 取引のすべてにおいて公正に努め、
相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、
特別なニーズを抱える人びとを助け、
地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
- ロータリーやほかのロータリアンの評判を
落とすような言動は避ける。
- ロータリーの会合、行事、活動においてハラスメントの
ない環境を維持し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、
ハラスメントを報告した人への報復が
起こらないようにする。

●例会場 アパホテル室蘭

●事務所 室蘭市中島町2丁目28-6 (アパホテル室蘭)

●電話 0143-45-6569

●URL <http://murokita-rc.org/>

●例会日 毎週火曜日 12:30 P.M.

●FAX 0143-50-6578

●E-mail mur-n.rc@athena.ocn.ne.jp



前回例会のプログラム

「職場訪問例会」

日時: 2023年4月18日(火) 12:00~14:00

場所: 国立大学法人 室蘭工業大学

奉仕プロジェクト委員会
職業奉仕委員会

テーマ: 脱炭素化社会で経営は成り立つのか?

胆振(室蘭)地域のCO2排出量・削減に向けた取組状況、および本学が進める脱炭素関連研究の最前線を知ってもらい、参加企業の脱炭素に関する意識をより高めます。

■講師

室蘭工業大学

山中 真也 准教授

木元 浩一 准教授

馬渡 康輝 准教授

■プログラム

開会の挨拶 [船水理事]

炭素概論 [山中准教授・木元准教授]

山中先生からは、脱炭素や再生エネルギーの世界から胆振、室蘭までの現状と可能性と課題について、木元先生は、経済学の視点から見る脱炭素の話。今後どのように世の中の経済が動いていく可能性があるかを伝えられました。



脱炭素関連事業を進める施設見学

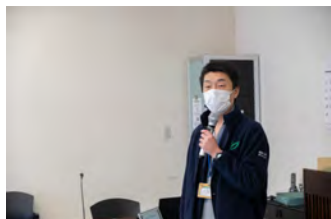
カーボンポジティブラボの馬渡先生は、温度で曇り具合が変わるスマートウィンドウの実演でした。質問も多数飛び交いました。

テーマ「脱炭素化社会で経営は成り立つのか?」について討議

学生広報スタッフ「むろこーほー」の2名にも参加してもらい、脱炭素から、企業の在り方、求人・就職活動、政治の話をして、互いの世代や立場で率直な意見を語り合いました。

閉会の挨拶 [西野会長]

数年振りに開催された職場訪問の移動例会。やはり通常にはない現場の魅力が詰まった例会でした。



今回の例会は室蘭工業大学での移動例会(職場訪問)でした。「脱炭素化社会で経営は成り立つのか?」というテーマでのお話を聞かせていただき、私達の住む町、室蘭の再生可能エネルギーの普及の実態など、中小企業が出来る環境問題対策などを改めて考えてみるきっかけになりました。今後もロータリークラブの職場訪問などで、色々な会社を見学させて頂き勉強していきたいと思いを。ありがとうございます。(A.S.)

STOP! フードロス

フードロスをエネルギーと水資源のロスの視点から見ると



船水 尚行 会員

私たちが口にする食料は大きく次の4段階を経ている：①生産段階（畑や水田による生産、家畜の飼育、水産物の養殖や漁獲）、②収穫後の貯蔵・加工段階、③流通段階、④家庭などでの調理段階。この4つの段階をアグリフードチェーンと呼んでいる。それでは、このアグリフードチェーンはどれだけのエネルギーと水資源を消費しているものなのか見てみることにしたい。

まずはエネルギーについて。FAOの報告書1)には次のような記載がある：

アグリフードチェーンで利用しているエネルギーは世界全体のエネルギー利用の30%を占めている。そして、アグリフードチェーンは世界の温室効果ガスの20%分を発生している。私たちが生産する食料の1/3以上が失われたり廃棄されたりしており、これをエネルギーに換算すると、アグリフードチェーン全体のエネルギー使用の38%に上る。すなわち、フードロスで私たちは世界で利用するエネルギーの10%強を失っていることがわかる。

次に水資源2)と食の関係について興味深い数値として次のようなものが挙げられる。世界の水

資源は、72%が農業、16%が生活、そして、12%が工業生産に利用されている。(UN-Water 2021)

1kgのコメの生産には、3,000～5,000ℓの水が利用されている。豆1kgの生産には2,000ℓ、小麦1kgには900ℓ、いもには500ℓの水が必要である。(WWF, 2006)

以上のように、フードロスはエネルギーロス、水ロスであることがわかる。そして、このロスは世界的な気候変動にまで影響を与えていることを認識する必要がある。また、調理後の最終段階でのロスは、単純な食品のロスではなく、アグリチェーン全体の活動をすべて捨ててしまうこととなることを肝に銘じなければならないと考える。

参考にした報告書

FAO:Energy-Smart Food at FAO: An Overview, 2012

[HTTP://WWW.UNWATER.ORG/WATER-FACTS/WATER-FOOD-AND-ENERGY/](http://www.unwater.org/water-facts/water-food-and-energy/)

室蘭工業大学 副学長

ガバナー月信をスマホから

国際ロータリー第2510地区のロータリアンの皆様:AIを実感してみませんか?

クラブ広報委員会 小野寺 浩二 委員長

今月よりガバナー月信をスマホから音声にて聞くことができます。QRコードよりぜひご覧ください。このQRコードをクラブの会報に掲載して頂ければ幸いです。

毎月、新しいQRコードを送ります。



◀QRコード

③ガバナー月信が掲載してあるページが表示される

【音声を聞くには?】



【QRコードの読み取り方法】

- ①スマートフォンのカメラをタップし(アプリを起動)上記の「QRコード」へ向ける
- ②コードを認識すると「QRコード読み取り成功」や「rid2510.org」という表示が出るのでタッチする

各目次の下にある三角形の再生マーク(▶)を押すと音声が流れます。

どうぞお楽しみください。